

やまなかきょうこ
山中共古

「吉居雑話」

より

昭和五十八年七月五日号

明治の末年、吉原教会に山中 笑（号を共古）という牧師がいました。民俗学者としても知られた彼は、吉原での生活を見聞記録「吉居雑話」としてまとめ、当時の伝説や年中行事わらべうたなどを紹介しています。

すでに昨年十二月五日発行の広報ふじで、「石坂の鶏頭豆」という伝説を紹介しましたが、今回は、史話とわらべうたを紹介します。

三日市場浅間神社の湧水

伝法の三日市場浅間神社からは、豊富な湧水が出ており、今泉村ではこの水を引き、田を作っていました。

水代として、毎年、年貢七俵を納めることを約束しましたが、不作つづぎのため納めることができません。神社では、年貢のことを村にもちかけると、村人たちは「大変申し訳ありません」と謝りましたが、納めるお米がありません。

そこで、やはりこの神社の水を使っている、日野屋という酒造屋へ相談したところ、日野屋では心よくこの七俵の米を神社へ納めてくれました。それ以来、維新まで毎年納めてくれたとのことでした。

富士のわらべうた

▼吉原の羽根つきうた

※お年寄りの中には、子どものごころ唄った人もいるかも知れませんが…。

・おきよ——よお京　ねさん十よお京よお
京　ねさん二十よ　お京よお京　ねさん三十
よ（百まで繰り返し、また元へ戻る）

・一人きな二人きな　見てきな寄つてきな
いつきたおごどん　ななこの帯をやの字に結
んで　このやじや十よ

（富士東高校教諭　加藤善夫さん）

